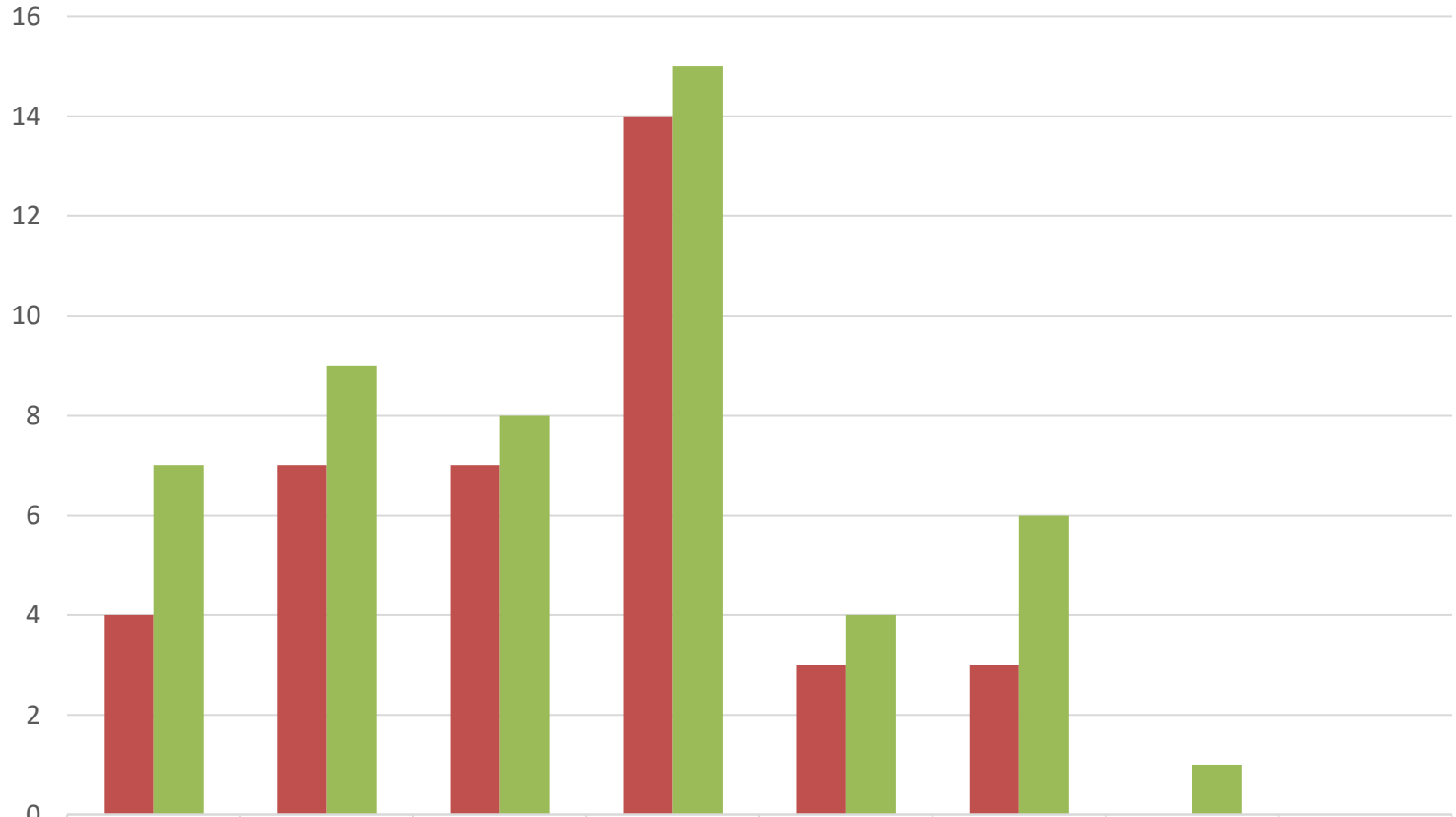


初期臨床研修医増加の背景 —太田西ノ内病院の事例—



一般財団法人太田綜合病院
附属太田西ノ内病院
臨床研修室 今泉雄太

当院の研修医数の推移



■ 中間発表
■ 最終マッチ数

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
■ 中間発表	4	7	7	14	3	3	0	0
■ 最終マッチ数	7	9	8	15	4	6	1	0

なぜ研修医が来なくなってしまったのか…

- 医学生のニーズの変化

給料が安くても、症例が多い病院で学びたい

→ 正当な対価を得ながら、無理なく学べる環境を選びたい

「給料が安いのに忙しい」・「とにかく働かされる」

……悪い口コミ



- 新型コロナウイルスの影響

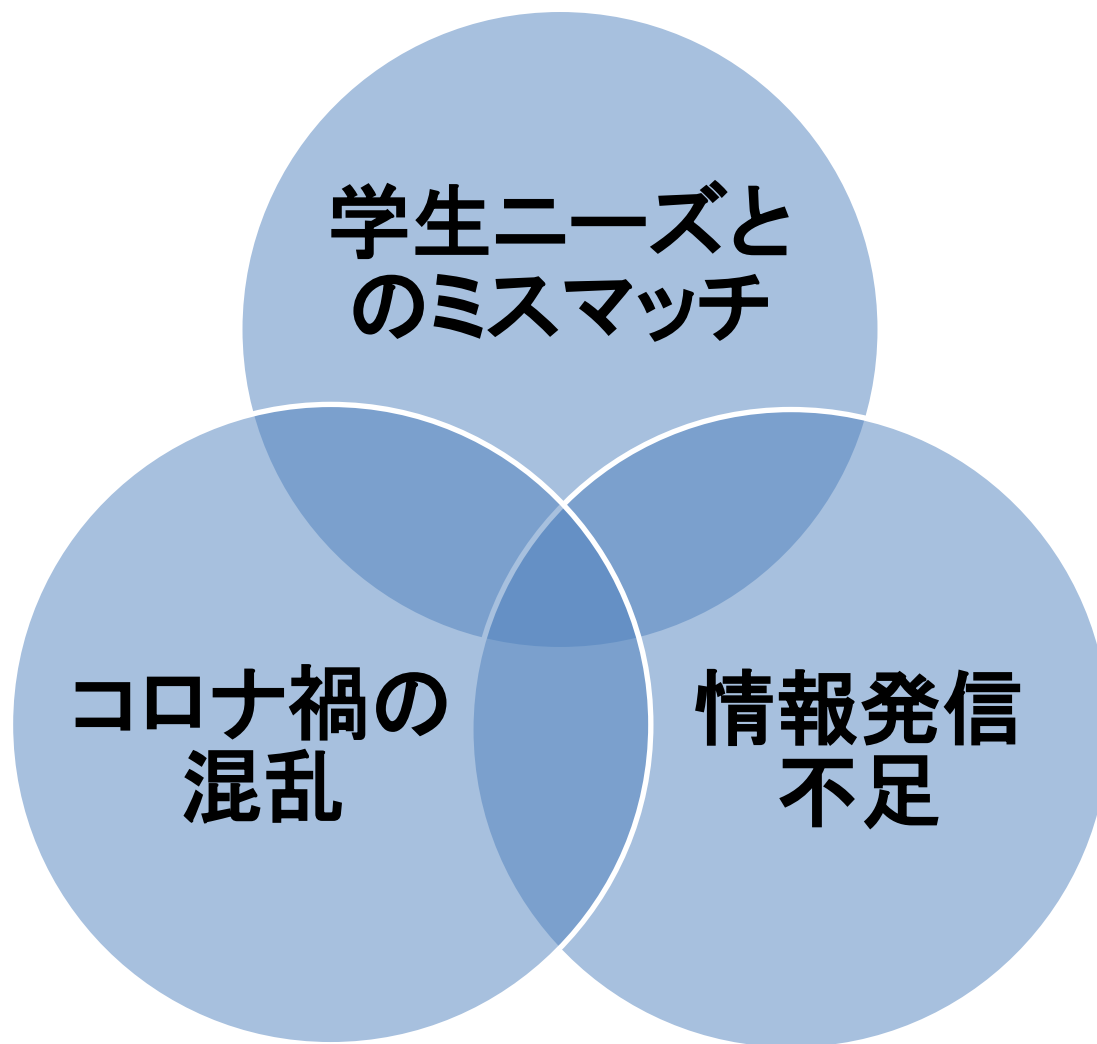
2021年 クラスタ発生

「太田西ノ内病院は大変そうだ」……医学生から敬遠される

- 情報発信の不足

学べる環境は十分にある(熱心な指導医も多い)

太田西ノ内病院の良さが学生に伝わらない



マッチング0名という結果に...

もう一度、研修医が戻ってくる病院にしたい！

① 研修医サポートワーキング会議を開催

メンバー

- ・プログラム責任者
- ・当院出身の指導医、上級医
- ・現役研修医、専攻医

○ 研修医が安心して学べる環境とは...

○ 学生に「また来たい」と思ってもらうには...



現場の声を拾い上げることが第一歩



もう一度、研修医が戻ってくる病院にしたい！

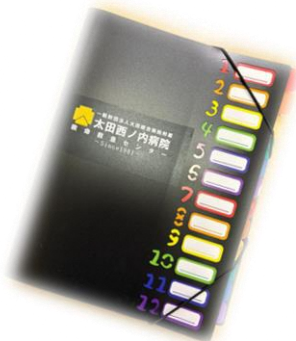
②医学生への対応

→第一印象を良くする

- iPadを活用

プログラム資料やYouTube動画、研修風景の画像

- 県外からの医学生へ宿泊先手配
- 病院見学後の食事会費の補助
- 救命救急センターの資料配布
- 医学生待機室の整備



もう一度、研修医が戻ってくる病院にしたい！

③教育体制の充実

～外部講師を招いた研修会の開催～

総合診療スキルアッププログラム

外来・病棟での診療能力を高めるための実践的な研修

福島県立医科大学総合内科教授 濱口杉大先生

諏訪中央病院 総合診療科 山中克郎先生



FUKUSHIMA救急・総合診療プロジェクト

救急や災害医療に特化した実践的プログラム

富山大学名誉教授 奥寺 敬先生

福島県立医科大学救急医学講座教授 伊関 憲先生



もう一度、研修医が戻ってくる病院にしたい！

④研修環境の充実

・処遇面の改善

当直手当の増額、時間外手当の支給

・Wi-Fi環境の整備、院内携帯からスマホへ 学びやすい環境づくりとして、Wi-Fi環境を全館で整備

・院内コンビニの設置

「必要なものを買える環境」へ

・研修医室に電子カルテを設置

診療記録や振り返りがより効率的に



もう一度、研修医が戻ってくる病院にしたい！

⑤ 組織的取り組み

・病院長の理解と支援

病院長自らランチセミナーを開催

・研修医からの意見を聞く機会を作る

月に一度「卒後臨床研修センター会議」を開催

・各診療科の指導医が自主的に研修会を開催

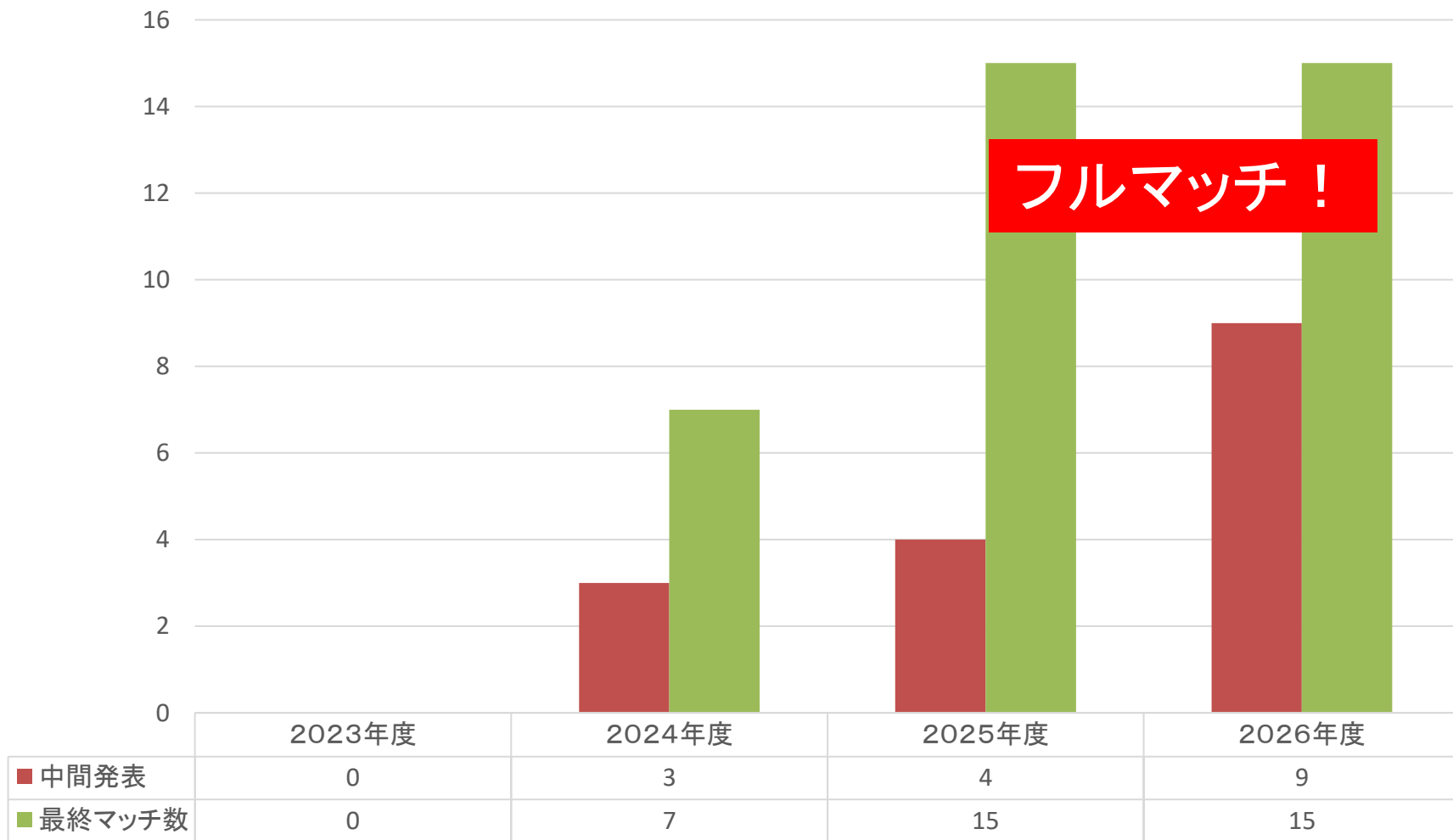
ハンズオンセミナー、エコーセミナーなどを開催

・通年開催の研修会の運営体制の見直す



研修医を病院全体で育てる

その結果・・・



(自治医科大学1名含む)

(自治医科大学1名含む)

今後の課題

指導体制の負担増大

「教えたいたい気持ちはあるが、時間的な余裕がない」

症例数・指導医確保

一人当たりが経験できる症例数が減少

若手医師の都市部流出などにより、指導医の確保が困難

「量」と「質」の両立

教育の質を保ち、各自が十分に成長できる
環境を維持



まとめ

◆研修医増加の要因

→ 医学生対応・教育体制・研修環境整備・組織的支援

◆今後の課題

→ 指導体制の負担軽減、症例・指導医確保、
「量」と「質」の両立

当院の事例が皆さんの参考になれば幸いです

ご清聴ありがとうございました